

「秋田大学学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日：2013年7月22日

所属：教育文化学部 国際言語文化課程 国際コミュニケーション選修 4年

氏名：千田 美穂

派遣大学：ブカレスト大学

派遣期間：2012年10月～2013年6月

渡航年月日：2012年9月27日

帰国年月日：2013年7月2日

○派遣大学における授業等の履修状況

| 授業名 | 履修期間 | 講義時間 (週) | 取得単位数 |
|-------------------------------|------------|-------------|-------|
| Argumentation Theory | Fall2012 | 2時間 | 2 |
| Native American Literature | Fall2012 | 2時間 | 2 |
| British Art | Spring2013 | 2時間 | 2 |
| Practical of English Language | Spring2013 | 4時間 | 4 |

○研究・学習概要及び今後の勉学計画

私はブカレスト大学の英語学科で学びました。正規の学生は、文学、言語学、実践的な英語の学習（翻訳や、問題集を解く）の3つを全員が受けることとなります。しかし私達留学生は好きな授業を受けることができたため、私は3年生のために開かれている自由選択の科目から多く授業を受けることにしました。そう考えたのは必修科目より選択科目の方に興味を持ったからです。必修科目は、講義（週1）と演習（隔週）に分かれていました。選択科目は週一回の講義だけでした。まず、私は他の学生より語学に劣る上に予備知識もなかったため、授業のスピードがとても速く感じました。また、先生はほとんど板書してくれないので、何を話しているか全くわからないこともありました。学生の授業態度は、発言の回数や量が多い部分もありましたが、スマートフォンをいじる友達とおしゃべりをするなど、日本にもいるような人も多くいました。発表するとき、キーワードや、プリントにアンダーラインされたものだけを見て流暢に話す姿はネイティブ並みのレベルの高さを感じました。パワーポイントを使う先生の授業では、iPadを持ちこみ、それを見て授業を受けている学生がいたり、連絡事項をコミュニティサイトするなど、ネットを使って授業関連の事が済まされていました。



○生活面について

私は学生寮に前半は日本人2人と、後半は日本人1人、モルドバ人1人とで住みました。部屋は小さな倉庫のような部屋にバスルームが付いているだけの簡素なものでした。キッチンはなく、洗濯機は各階のものを共有でした。(ただし1階にはない)元々キッチンはありませんでしたが、IHなどを買って自炊をしました。そうしなくても、ルーマニアのご飯はおいしく、安いので大丈夫だと思います。



また日本食や、アジア食もある程度簡単に手に入れることができます。米、醤油、てりやきソース、海苔、パックに入った寿司などはどこにでもありました。

街では何メートル間隔かでごみ箱が設置されているにも関わらず、ごみがあふれていたといことと、ジプシーやホームレスが多く、暗い街という印象を受けました。また、ルーマニア人はラテン民族ということで、陽気なイメージを持っていましたが、近づいて来てくれたのは最初だけだったように感じます。海外では自国の政治などについて聞かれると思っていましたが、そのような質問は一切なく、それだけでなく、もっと日本のこと教えてと聞いてくる人も少なく落胆したことを覚えています。外出に誘っても、お金がない、時間がないと断られることも多々あり、注意しても仲間どうしでルーマニア語で話すなど、接しづらさも感じました。

○その他留学全般にわたる感想



今回が初めてのヨーロッパ滞在になりました。留学中はさまざまな土地や国に足を運ぶことができ、ヨーロッパの地理や歴史に強くなり、今まで関心の薄かった美術や音楽にも興味を持つようになりました。また英語が世界共通語と言われていること、ネイティブの発音、文法が全てではないということを実感しました。これからはこの留学経験を卒業論文や、将来の仕事に活かせたらと思っています。今回留学を支援して下さいました秋田大学、ブカレスト大学に感謝しています。